

ウォルフガング・アマデウス・モーツァルト

Wolfgang Amadeus Mozart (1813-1901)

フィガロの結婚

-Le Nozze di Figaro-

原作：ピエール・オーギュスタン・カロン・ド・ポーマルシェ
Pierre Augustin Caron de Beaumarchais, original

【フィガロの結婚、またはばかげた一日】
Le Nozze di Figaro

台本：ロレンツォ・ダ・ポンテ
Lorenzo da Ponte, libretto

初演：1786年5月1日、ウィーン、ブルグ座
Wien Burgtheater 1, May at 1786

親しみ度：☆☆☆☆☆☆☆☆

知名度：☆☆☆☆☆☆☆☆

おもしろ度：☆☆☆☆☆☆☆☆

喜劇度：☆☆☆☆☆☆☆☆

形式：全四幕

presented by

RISE AND TRUTH



登場人物



フィガロ

Figaro

青年。伯爵の召使、同じく召使のスザンナと婚約する

スザンナ

Susanna

頭の良いフィガロの婚約者。

伯爵に婚約を迫られている

アルマヴィーア伯爵

Count

浮気性の困った伯爵、傲慢、唯我独尊の象徴として描かれている

伯爵夫人ロジーナ

Countress

アルマヴィーア伯爵の夫人。

夫の愛が離れてしまったと嘆く

ケルビーノ

Cherubino

お調子者の小姓

マルチェッリーナ

Marcellina

伯爵亭の召使頭

実はフィガロの母親で、夫人の元教師

バルトロ

Bartolo

セビリャの医者

バジーリオ

Don Basilio

伯爵亭で働く音楽教師

アントーニオ

Antonio

伯爵亭で働く庭師

バルバリーナ

Barbarina

アントーニオの娘、ケルビーノと仲が良い。





第一幕

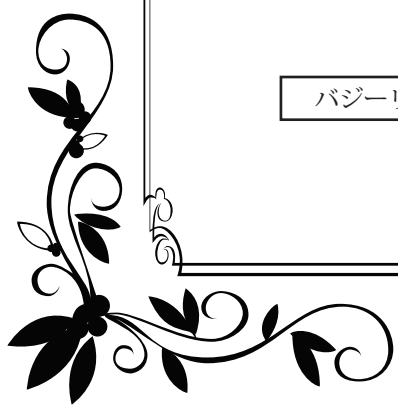
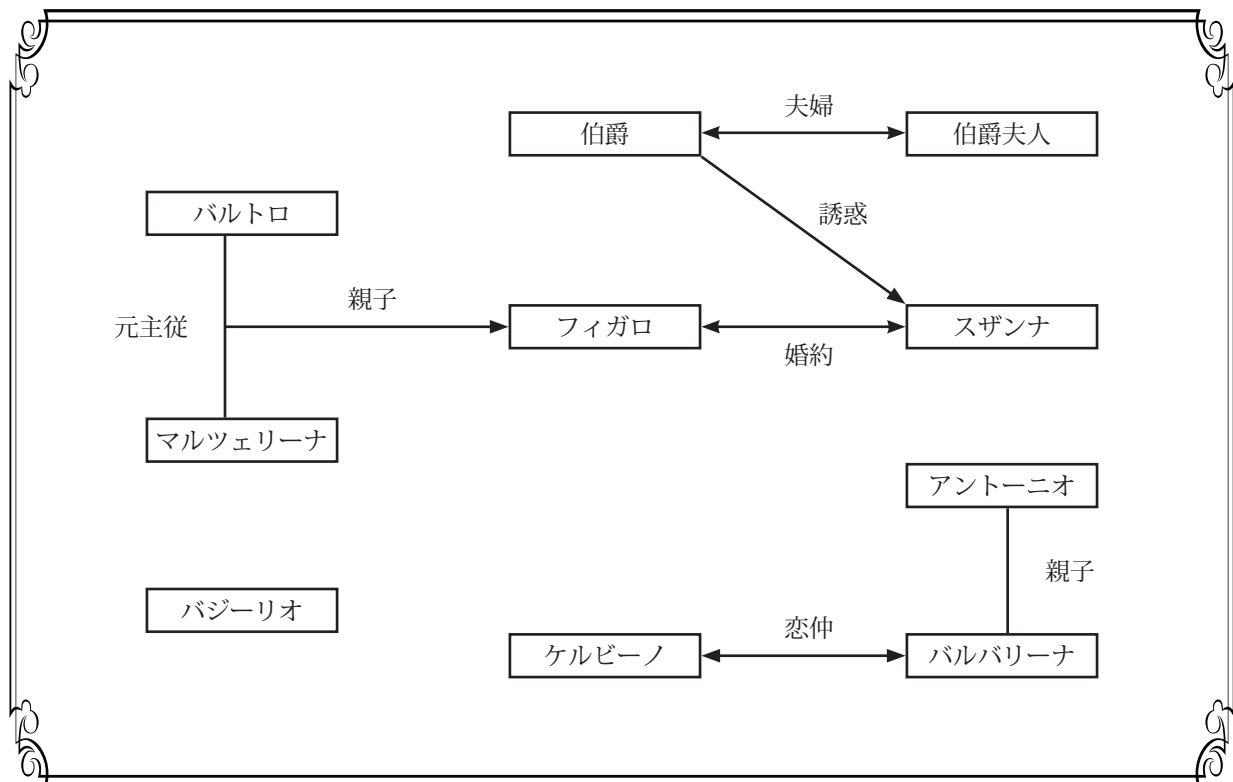
フィガロとスザンナの結婚式当日

フィガロは家具を入れるため、嬉しそうに伯爵から与えられた部屋の寸法を測っている
スザンナは浮かない顔をしている、なぜなら伯爵が一度破棄した初夜権を復活したからだ。
伯爵がフィガロに与えたのは伯爵の部屋の隣、フィガロは伯爵の企みを知って対策を練り始める。

しかし、そんなフィガロにも結婚にさしあたって、ひとつだけ悩みの種があった。
実は、フィガロはスザンナの先輩にあたる 召使頭のマルツェリーナに多額の借金をしており、返済できなかつたらマルツェリーナと婚約する、という約束だ。
そう、伯爵がスザンナに色目を使っているのと同じようにマルツェリーナもまた、フィガロを狙っていた。

ふとスザンナの部屋に 伯爵の小姓、ケルビーノがやってくる。
ケルビーノは小姓にもかかわらず、庭師アントニオの娘バルバリーナと逢引している事を伯爵に知られ暇を出されてしまった。
そこでスザンナの口添えを貰い、許しを貰いたい、というのだ。
しかしそこへ問題の当人、アルマヴィーア伯爵が現れる。
ケルビーノが物陰へ隠れると、伯爵は早速スザンナを口説きに掛かる。
さらに、そこへ音楽教師のバジリオがやってきて、スザンナにケルビーノが伯爵夫人に不倫を働いている、という噂話をはじめめる。
夫人の浮気に激怒した伯爵が堪らずその場に躍り出ると、その場はちょっとした騒ぎになる。
不運にも うまく隠れていたケルビーノも見つかってしまうが、そこへフィガロが村人を引き連れて登場。
伯爵から初夜権を破棄させようとさまざまな口車に乗せ酔うとするが、中々上手くいかない。
巧くその話術空逃げられた伯爵だったが、賢明なスザンナが瞬く間にケルビーノの許しをもらう事に成功する。
お調子者のケルビーノは暇を許されはしたが軍隊入りを命じられる。フィガロはそんなケルビーノを冷やかす。

人物相関図





第二幕

夫人とスザンナが居る伯爵夫人の部屋へフィガロがやってくる。

三人は伯爵の謀略を挫こうと相談を始め、やがてケルビーノをスザンナに女装させるという一計を講じるスザンナに女装させたケルビーノに伯爵を言い寄らせてワナにはめよう、という作戦だ。

しかし、早速女装の為の着付けをしているところへ突然、伯爵がやってくる。

とっさにケルビーノを衣装部屋に隠し、スザンナが気を利かせて姿を消す。

夫人は部屋に入ってきた伯爵に、スザンナが婚約衣装に着替えている、殿方の入室は遠慮して欲しい、と願いでるが伯爵は疑念を抱く。

伯爵がなんと少しでも衣裳部屋へ入ろうと工具を取り行った一瞬でケルビーノは窓から、スザンナは物陰から衣裳部屋へと移動する。

伯爵が無理やり開けたドアの向こうには着付け中のスザンナが現れる。

散々責められた伯爵だったが、庭師のアントニオがケルビーノが脱走した際に壊した鉢を持ってくる。

さらにマルツェリーナもフィガロとの婚約宣誓書を持ってきて自体は急展開する。

第三幕

スザンナは、まずは自分の問題を解決しようと伯爵へ密会の約束を取り付ける。

伯爵は浮き足立つが、それはスザンナの講じたあるワナの準備だった。

一方フィガロはマルツェリーナから判書を突きつけられ、結婚を迫られる。

するとフィガロは、自分の生い立ちを語り、自分は貴い生まれ、幼少の頃に没われた身で、親の許しを請う事が出来ないと結婚する事は出来ない、と主張する。

証拠に腕に残る古傷を見せると、マルツェリーナが驚嘆の声を上げる、自分がかつて医師バルトロの家に住んでいた時、彼との間に子供が出来た、その子供がフィガロだと叫ぶ。

瞬間に事実関係が明らかになり、マルツェリーナとフィガロは親子として再会を果たす。

残りはスザンナと伯爵の問題だけ、舞台はフィナーレへ。

マメチシキ・オペラ

shimizu 的、オペラ指揮者 6 選

指揮者には大きく分けてコンサート指揮者とオペラ指揮者の二つのタイプが存在します。

両方そつなくこなす指揮者もいれば、片方を得意としている指揮者もいます。

今回はワタクシ shimizu が録音時期、市場への普及率、実力などを基に選定した“オペラ指揮者ベスト5”を発表しちゃいます。

- ・アルトゥーロ・トスカニーニ（時代：モノラル、特徴：歌心溢れるイタリアオペラを得意としている）
イタリアオペラを振らせたなら彼の次元にたどり着ける指揮者はいない。それ程の実力を持っていたのがアルトゥーロ・トスカニーニ。ヴェルディ、プッチーニなどと交流が深く、作曲者自身から絶賛されたドラマティックな音作りは、息を呑む美しさを秘めています。
- ・ヴィルヘルム・フルトヴェングラー（時代：モノラル、特徴：ドイツオペラを中心に味わい深く、繊細でしかも重厚な演奏が得意）
残されたディスクの録音状況が良好であったなら、間違いなく今もトスカニーニと肩を並べる実力者として評価を得られる、それが音楽の守護者、ヴィルヘルム・フルトヴェングラーです。ワーグナーに強く、各種『リング』で高い評価を得ています。
- ・ヘルベルト・フォン・カラヤン（時代：モノラル～デジタル、特徴：全ジャンルに非常に聴き易く、美しい演奏、芸術的価値も高い）
帝王、ヘルベルト・フォン・カラヤン。敵が多かった彼ですが、今思えば彼ほどクラシックという音楽を愛した人はいなかったのではないのでしょうか？ オペラではモーツァルトからプッチーニまで幅広く優秀な録音を残しています。初心者の方にオススメです。
- ・クラウディオ・アバド（時代：ステレオ～デジタル、特徴：現代オペラ界の最高実力者、ヴェルディ、ワーグナーなどで幅広い支持）
ヴェルディとワーグナー、モーツァルトに非常に高い評価を得ているのがクラウディオ・アバドです。特にヴェルディの『シモン・ボッカネグラ』は非常に評価が高く、今も同作品の決定的名盤として語られています
- ・ヴァレリー・ゲルギエフ（時代：デジタル、特徴：出身国のロシア・オペラをジャンルとして確立、ロシアオペラの最高実力者）
それまで確立していなかったチャイコフスキー、プロコフィエフらロシア作曲家達のオペラの価値を世界基準まで高めた、それがヴァレリー・ゲルギエフです。特にムソルグスキーの『ボリス・ゴドゥノフ』はこの曲の決定版として高い評価を得ています。
- ・クリスティアン・ティレマン（時代：デジタル、特徴：ドイツオペラ界の超新星、画期的な解釈を元とした情熱的な演奏）
オペラファンが最も熱い視線を送る指揮者、それがクリスティアン・ティレマンです。バイロイト音楽祭の『〜リング』を始め、ワーグナーを中心に非常にクオリティの高い演奏を見せてくれます。



第四幕

スザンナから一風変わった趣向の密会の手紙を受け取った伯爵は、書面の通り、OKの返事を、手紙のピンを返却する事で応えた。

バルバリーナにその使いを任せるが、バルバリーナは道の途中でフィガロに逢い事の経緯を聞く。

スザンナと夫人は服を交換し、密会の場所で伯爵を待つ。

そこへ現れた伯爵は、早速スザンナだと勘違いして夫人を口説きはじめる。

フィガロは途中からその事に気づいていたが嫉妬をする。

そんなフィガロを見てスザンナが思わず平手打ちをする。

フィガロはスザンナに弁解するが、その光景を「夫人（スザンナだが、服装が夫人の服装をしているので）に言い寄るフィガロ」だと勘違いした伯爵は周囲の人間を呼び寄せる。

全員の前で夫人とスザンナが変装を解く。

伯爵は夫人に自分の罪を認め、自分が愛しているのは夫人だと告白する。

すると皆はドタバタな一日だったけど、こんな一日も愛だけが喜びに変える」と歌いフィナーレを迎える。

コメチキ・オペラ

フィガロの結婚、見所はこんなところ！

フィガロの結婚、このオペラの見所は伯爵が如何に滑稽に、スザンナがいかに凛とした気高い女性か、といった具合に登場人物一人一人が役者として優れているか、という点にあります。

モーツァルトの心躍る美しい音楽を素晴らしい指揮・オーケストラで聴く、という事は言うまでもありませんが、音楽劇としてより完成度の高い『フィガロ』は優秀な役者なくして語れません。

ワタクシshimizuが『フィガロの結婚』を見る時に意識しているのは、例えば以下のようなところだったりします。

・あらかじめストーリーを大雑把に流し読みして、見所を幾つかピックアップしてみる！

第二幕の後半にある伯爵が目話をした際の舞台の展開、『口説きシーン』が多いことから、それぞれの口説きシーンの違い etcetc. 物語の流れを自分の記憶にあるイメージと照らし合わせてゆくと、新たな発見や新しい視点や考え方が見つかる事が出来ますよ！

・フィガロのユーモア溢れるアリアはふとした笑いを呼び起こす歌、是非チェックしたいポイントです！

ユーモア溢れる台本を書く事でしられ、オペラ作曲家と台本家としてはR. シュトラウスとホーフマンスタールとならび称されるポンテのユーモアたっぷりのフィガロをモーツァルトがどのような曲付けをしているかは非常に興味深いところです。

本作ではスザンナや伯爵、マルツェリーナなど、各人に対してどのような反応をしているのかを見るのも面白いですよ！

オススメのディスク！

クラシックというジャンルは多くの場合、作曲家と同原語国出身の指揮者が優秀な演奏を残す事が多いのですが、この『フィガロの結婚』はモーツァルトの作品である事、オペラbuffa（喜劇の事をこう言います）である事、アンサンブルを中心に構成されている事から、様々な指揮者によって多種多様なアプローチで表現されています。

その中で「特にこれ！」と選出するのは難しいのですが、「こういったアプローチの『フィガロの結婚』を聴きたい」というニーズに対しての回答という形で一枚ずつ選ぶなら、これ！

・アバド指揮 ウィーン国立歌劇場管弦楽団・合唱団 スコウフス、ステューダー、マクネアー 他

→透明感があり、格調が高くで高貴な演奏が魅力的！軽やかで『綺麗』な『フィガロの結婚』をお楽しみになりたい方はこれ！

アバドがウィーンフィルと組んで、当時最高のキャストを以って望んだ現在、最も高い評価を得ているディスクです。

アバドらしい、アンサンブルの清楚で美しく、歌心のある組み立て方は女性的で柔らかく、絹のような心地よさを持つ軽やかさ、優しさが特徴です。

・ジュリーニ指揮 フィルハーモニア管弦楽団・合唱団、ヴェヒター、シュヴァルツコップ、タディ他

→作品の雰囲気をも忠実に再現！『モーツァルトを感じる事ができる』そんな演奏をお望みの方はこれ！

トスカニーニからその後継者に指名されたジュリーニの、澁刺として気品溢れる演奏が満喫できるディスクです。

何よりキャストが充実しており、シュヴァルツコップの伯爵夫人、buffaの天才、タディのフィガロなど、レベルの高いソリストを大きな魅力とし、さらにジュリーニの歌唱性豊かな指揮をフィルハーモニア管弦楽団が忠実に再現している、稀代の名演です！

・E. クライバー指揮 ウィーン国立歌劇場管弦楽団・合唱団 ペル、デラ・カーザ、シエビ、他

→正統派！同曲の決定的名盤として名高く『フィガロの結婚』を深く知りたい方はこれ！

半世紀以上も前の（モノラル）録音で、現代の録音に比べると細かい音が籠っていたり、音の幅が狭くて聴き辛くはありますが、『フィガロの結婚』の録音史上最大最高の作品として名高く、芸術的価値、歌劇録音史的観点から非常に貴重な一枚です。

E. クライバーの指揮はウィーン特有の円やかな響きをウィーンフィルと共に見事に作り出しており、更にシエビ扮するフィガロを始め、これ以上は考えられない最高のキャストを揃えたことで、一期一会の大名演を作り上げています